グレブナー基底と高次多変数方程式の 解法

鈴木 正幸

岩大・非常勤講師

November 3, 2019

変数が多く, 次数が高い, 方程式の解を, 求めるアルゴリズム

Contents

方程式を解くとは?

数の集合と基底と最大公約数多変数方程式をどう解くか?

パズルと基底と簡約

グレブナー基底

項の間の順序と簡約

グレブナー基底から方程式の解を求める方法

一次方程式

ax = b

両辺に , a^{-1} を , 左から掛ける:

 $x = a^{-1}b$

2/30 3/30

連立一次方程式(系)

$a_{11}x_1 + a_{12}x_2 + \dots = b_1,$ $a_{n1}x_1 + a_{n2}x_2 + \dots = b_n$

- ▶ 線形代数 ガウスの消去法
- ▶ 一次方程式, ax = b に帰着させる

一変数方程式

$a_n x^n + \dots + a_0 = b$

- ▶ 解の公式, xⁿ = c に帰着させる.
- ▶ 帰着できない時、数値計算 (ニュートン法) で近似的に求める。

多变数 (代数) 方程式 (系)

$$f_1(x, y, \dots, z) = 0,$$

$$\vdots$$

$$f_n(x, y, \dots, z) = 0$$

- ▶ 変数消去 因数分解
- ▶ 必ず解ける方法を知っていますか?

4 / 30

数の集合と基底

$P = \{ax + by | x, y \in \mathcal{Z}\}$

a の倍数と b の倍数を加えてできる整数の集合 P を考えます。 a と b は , P を生成する基底です。

 $c \in P$ ならば問題は解決です。

 $\{gz|z\in\mathcal{Z},g\in P\}=P$ となる,g があるか?

- ax + by = g となるの x と y は , ユークリッドの互除法 によって求められます .
- ▶ 最大公約数 g は, a と b の組合わせでできる数の集合の もっとも簡単な基底 となります .

二つの方程式 $f_1(x) = 0$, $f_2(x) = 0$ の共通解は?

それぞれの方程式の解を求めて、共通な解を求めてもいいですが、

前の議論から、

► 二つの式 f₁(x), f₂(x) の組み合わせでできる, 多項式全て の集合を考える:

 ${A(x)f_1(x) + B(x)f_2(x)|A(x), B(x)}$ は任意の x の多項式 $}$

- ▶ 最も簡単な (次数の低い) 式 (基底) を求め,
- その解を求める。

天秤秤の問題

天秤秤と, a グラムの重りと b グラムの重りが無数にあるとします. どんな重さが測れるでしょう?

あるいは, c グラムを測る事ができますか?

7 / 30

8 / 30

5/30

9/30

最大公約多項式

ightharpoonup この基底は , $f_1(x)$ と $f_2(x)$ の最大公約多項式 $\left(g(x)\right)$ となり.

$$a(x)f_1(x) + b(x)f_2(x) = g(x),$$

 $\deg(a(x)) < \deg(f_2(x)),$
 $\deg(b(x)) < \deg(f_1(x))$

▶ g(x), a(x), b(x) はユークリッドの互助法で求められる

多変数で高次な方程式をどう解くか?

$$f_1(x, y, \dots, z) = 0,$$

 \vdots
 $f_n(x, y, \dots, z) = 0$

 f_1,\ldots,f_n を組合わせでできる任意の多項式の集合を考える

$$\{A_1(x,...,z)f_1(x,...,z)+\cdots+A_n(x,...,z)f_n(x,...,z)\}$$

この集合を $(f_1,...,f_n)$ と表し , f_1 から f_n が作るイデアル $\mathcal I$ と呼ぶ .

 ${\mathcal I}$ を作ることのできる多項式の組をイデアルの基底と呼びます.

11 / 30

都合の良い基底

方程式を解くのに都合の良い基底を求めることは,

同じ解を持つ,より簡単な方程式系への変換となる.この基底が例えば,

$$(g_1(x,z) = 0, g_2(y,z) = 0, \cdots, g_m(z) = 0)$$

という形で求まれば、

多変数方程式の問題は、一変数方程式の問題に帰着される、

- ▶ 「このような変形はできるのか」。
- ▶ 「変形する方針は」,
- ▶ 「必ず求まるのか」

などが問題となる.

12 / 30

15 / 30

グラス置き換えパズル

ウィスキーのグラス W, ビールのグラス B, お酒のグラス Sが一列に並んでいる。 グラスは次の置き換え規則で、置き換えて良いとする。

置き換え規則
$$G\left\{egin{array}{ll} B & \longleftrightarrow & WB \\ BS & \longleftrightarrow & W \end{array}\right.$$

問題

- BSBS は WWWB に置き換えできるか?
- 2. BSBBS は BWW に置き換えできるか?

問題の難しい点

- ▶ できる場合はその置き換えを示せば良いが、
- できない事を示す事

パズル解法への道

簡単な方へ置き換える (簡約化) ことにする

簡約規則
$$R\left\{ egin{array}{ll} WB &
ightarrow & B \\ BS &
ightarrow & W \end{array}
ight.$$

正規形

- ▶ これ以上簡約できないものを正規形と言う
- ▶ 置き換え規則 G で置き換え可能な列の要素は簡約規則 R で同じ正規系を持つか?
- ▶ この性質が成り立てば、簡約系で正規形が同じであれば、 置き換え系で、置き換え可能となる。

簡約規則の追加

置き換え可能なのに、同じ正規形を持たない場合は、そのような簡約規則を追加すればよい。 例えば、WBSは二つの置き換えが可能:

$$\left\{ \begin{array}{ll} WBS \rightarrow WW \\ WBS \rightarrow BS \rightarrow W \end{array} \right.$$

置き換え系では, WW と W は, WBS を通して置き換え可能であるから, 簡約系で

$$WW \to W$$

を新しい簡約規則として採用すればいい事になる。 この追加される簡約規則をどうやって見付けるかが問題と なる。

新しい規則を見つける

▶ 簡約規則の左項中で、重なりが生ずるような二つの規則を探す。

(この二つの簡約規則を危険対と呼ぶ) 今の場合, $BS \geq WB$ は 重なりを持つ項, WBS を別の 正規形に簡約する可能性を持つ

► この操作を次々に繰り返し、危険対が全て同じ簡約形を 持つようになった時、置き換え可能である物は、全て同じ 正規形を持つ事になる。

これを,簡約系の完備化という

完備な系

- ▶ 正規形は有限ステップで求まる (停止性)
- ▶ ある項の正規形は、簡約順序によらず同じになる。(合流性)

16 / 30

10 / 30

13 / 30

17 / 30

14/30

パズルの答え

簡約規則 R を完備化すると

簡約規則
$$R' \left\{ egin{array}{ll} WB & o & B \\ BS & o & W \\ WW & o & W \end{array} \right.$$

これでパズルの問題が解ける

- ▶ $BSBS \rightarrow^* W$, $WWWB \rightarrow^* B$, なので, 置き換え不可
- ト $BSBBS \to^* BW$, $BWWW \to^* BW$, なので、置き換え可

これがどう方程式と関係しているのでしょう?

19 / 30

グレブナー基底

与えられた方程式 f_i の最高順位項を $head(f_i)$ 、残りの項を $rest(f_i)$ とすると,

$$f_i = head(g_i) + rest(g_i) = 0$$

から

$$head(g_i) \rightarrow -rest(g_i)$$

という簡約規則を作る事ができる。 このような簡約系を作るには、項間の順序、簡約、危険対の求 め方を、方程式用に決める必要がある。

項の間の順序と簡約

いくつの順序が考えられ、順序によって完備な簡約系が異る

辞書式順序: $xyz > yz^3 > z^5$

全次数辞書式順序 $x^5 > x^4y > x^3yz$

20 / 30 21 / 30

簡約

簡約

基底の先頭項を残りの項で置き換える簡約規則と見て,項をより低順位項で置き換える操作.

 g_1 を g_2 で簡約

- ▶ $g_1 = x^4yz xyz^2$ ($head(g_1) = x^4yz$, $rest(g_1) = xyz^2$)
- ▶ $g_2 = x^3yz xz^2$ ($head(g_2) = x^3yz$, $rest(g_2) = xz^2$) $g' = g_1 - (head(g_1)/head(g_2))g_2$

 $g' = g_1 - (head(g_1)/head(g_2))g_2$ = $g_1 - (x^4yz/x^3yz)g_2$ = $x^2z^2 - xyz^2$

22 / 30

S多項式

新たな簡約規則を得るための計算. 2 つの多項式 f_1,f_2 の S 多項式を $Sp(f_1,f_2)$ と書き、以下のように計算する。

$$Sp(f_1, f_2) = \frac{lcm}{head(f_1)} f_1 - \frac{lcm}{head(f_2)} f_2$$

$$g_1 = x^3yz - xz^2$$
, $head(g_1) = x^3yz$,
 $g_2 = x^2y^2 - z^2$, $head(g_2) = x^2y^2$

 $lcm(head(g_1), head(g_2)) = x^3y^2z$

 $Sp(g_1, g_2) = (lcm/head(g_1))g_1 - (lcm/head(g_1))g_2$ $= (x^3y^2z/x^3yz)g_1 - (x^3y^2z/x^2y^2)g_2$ $= -xyz^2 + xz^3$

23 / 30

グレブナー基底の定義

イデアル \mathcal{I} の基底を $G = \{f_1, \dots, f_n\}$ とする。 F を可能な限り M 簡約した結果をF' とし,

$$F \stackrel{G}{\longmapsto} F'$$

と表す

グレブナー基底 G

 ${\mathcal I}$ の任意の要素 f に対し ,

$$f \stackrel{G}{\longmapsto} 0$$

G がグレプナー基底の時, $f \stackrel{\psi}{\longmapsto} f'$ を計算し,f' = 0 を調べることで、 $f \in \mathcal{I}$ であるかを簡単に決定できる

24 / 30

f_1, f_2, f_3 のグレブナー基底計算 (全次数辞書式順序)

$$\begin{cases} f_1 = 2x_1^3x_2 + 6x_1^3 - 2x_1^2 - x_1x_2 - 3x_1 - x_2 + 3 \\ f_2 = x_1^3x_2 + 3x_1^3 + x_1^2x_2 + 2x_1^2 \\ f_3 = 3x_1^2x_2 + 9x_1^2 + 2x_1x_2 + 5x_1 + x_2 - 3 \end{cases}$$

s-多項式

$$Sp(f_1, f_2) = (lcm/head(f_1))f_1 - (lcm/head(f_1))f_2$$

$$= (2x_1^3x_2/2x_1^3x_2)f_1 - (2x_1^3x_2/x_1^3x_2)f_2$$

$$= -2x_1^2x_2 - 6x_1^2 - x_1x_2 - 3x_1 - x_2 + 3$$

$$= f'_4$$

グレブナー基底

 f_1, f_2, f_3 のグレブナー基底

$$G = \begin{cases} x_1 x_2 + x_1 - x_2 + 3, \\ 2x_1^2 - 3x_1 + 2x_2 - 6, \\ 2x_2^2 - 8x_1 - 5x_2 - 3 \end{cases}$$

グレブナー基底から方程式の解を求める方法

辞書式順序で基底計算を行うと、連立方程式の解が求めやすいが、基底計算に時間がかかる上に計算量が多くなる. 簡単に求まる基底から,解を求める手法として固有値法がある.

固有值法

- 1. 任意の多項式を、グレブナー基底 G で簡約した多項式の集合 $\mathcal{P}^s/\mathcal{I}$ は、ベクトル空間をなす.
- 2. グレブナー基底の最高順位項で割り切れない全ての項の 集合を Normal set といい、 $\mathcal{P}^s/\mathcal{I}$ ベクトル空間の基底と かる
- 3. Normal set により $x_i \times$ を行列で表す事ができる.
- 4 その行列の固有値は \mathcal{I} の x_i に関する解となる.

簡約 25 / 30

26 / 30

f_1, f_2, f_3 のグレブナー基底

$$G = [x_1x_2 + x_1 - x_2 + 3, 2{x_1}^2 - 3x_1 + 2x_2 - 6, 2{x_2}^2 - 8x_1 - 5x_2 - 3]$$

Normal
$$Set = \{1, x_2, x_1\}$$

書き換え規則

$$\begin{cases} x_1 x_2 & \to -x_1 + x_2 - 3 \\ x_1^2 & \to \frac{3}{2} x_1 - x_2 + 3 \\ x_2^2 & \to 4x_1 + \frac{5}{2} x_2 + \frac{3}{2} \end{cases}$$

$$P = c_1 \vec{x_1} + c_2 \vec{x_2} + c_3$$

$x_1 \times$ の行列 (かけ算表)

$$\begin{array}{cccc} & 1 & x_2 & x_1 \\ x_1 \times 1 & 0 & 0 & 1 \\ x_1 \times x_2 & -3 & 1 & -1 \\ x_1 \times x_1 & 3 & -1 & 3/2 \end{array}$$

$x_1 \times$ の固有値

28 / 30

$$\left[0, \ \frac{5}{4} + \frac{1}{4}\sqrt{65}, \ \frac{5}{4} - \frac{1}{4}\sqrt{65}\right]$$

$x_2 \times$ の行列 (かけ算表)

$$\begin{array}{cccc}
 & 1 & x_2 & x_1 \\
x_2 \times 1 & 0 & 1 & 0 \\
x_2 \times x_2 & 3/2 & 5/2 & 4 \\
x_2 \times x_1 & -3 & 1 & -1
\end{array}$$

$x_2 imes$ の固有値

$$\left[3, \ -\frac{3}{4} + \frac{1}{4}\sqrt{65}, \ -\frac{3}{4} - \frac{1}{4}\sqrt{65}\right]$$

これらの固有値が f_1, f_2, f_3 の解である。

29 / 30